（別紙4）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391500164		
法人名	社会福祉法人光総会		
事業所名	ぐるーぷほーむやすらぎ		
所在地	熊本県天草市五和町御領6447番地		
自己評価作成日	令和4年　8月　9日	評価結果市町村報告日	令和4年　9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で落ち着いた雰囲気と、医療・介護・社会生活的側面を重視し、利用者様の生活の質の向上に勤 め、個人生活の把握に努力をしています。個人生活に必要な社会生活を拡大発展させるため医療・介護面 の確認と記録を行い、安定した場合、外出が行えるようにしたい。特にご利用者様の把握は、カンファ レンス様式の活用（医療・介護・社会生活）と職員が 担当ご各利用者様に必要な介護上の気づきを記入、具体的ケアを実施。そして、各委員会活動で①主任②事故ヒヤリ等③虐待身体拘束予防等④認知症変化確認等⑤服薬管理等⑥月行事等、⑦OJT職能向上等 の各委員会を各職員が対応、施設長が調整し、他に施設内研修をテキスト等や世間の動向などから実施し て対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

隣接する医院が協力医であり、小規模多機能ホームや地域交流スペース等、地域の医療・福祉が支えられています。施設長自ら職員の育成に取組み、入居者の安心・安全のため、より良い支援に向けた取組みが見られます。日常生活では、コロナ禍であっても窓越し等工夫しながら入居者との面会を受入れ、関係の継続を支援されています。訪問時には入居者に寄り添う職員の姿があり、「利用者の心の理解」を深め、入居者の好みの話題を把握することで入居者の楽しい時間作りとされている様子が窺えました。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

No.	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新設時からしばらくしてGH特有の介護の要素をまとめ大別して、コンセプトに準じて理念作成をその時の職員と実施した。内容は的確に認知症介護の内容を網羅してバンランスを考えていると思う。	地域との関わり等を考えた開設以来の理念は事業所に掲示され、職員間で共有を図っている。全体的な理解度を上げるため、施設長は面談やOJT等を継続して行い、理念の共有・実践に取組んでいる。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議時の適切な協力が得れそうな方々の参加をお願いしており、参加がある。月行事委員会にて地域の恒例行事への参加を心がけている。	隣接する法人の医院は地域との関わりも長い運営がされており、関連事業所である保育園では入居者と園児の交流も続いている。現在はコロナ禍であり以前のような交流は難しい状況であるが、季節飾りのプレゼント等、園児との関わりを感じる取組みを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の方よりはご家族に職員より介護についての説明や対応を家族参観日として会食会時や運営推進会議時に説明する事があるったが、コロナ感染拡大の懸念で実施は控えている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHと小規模多機能型施設の合同運営推進会議を開いており、事業所ごとに違ったサービス評価があるので説明や実施を現在は書面等で行っている	運営推進会議は地域役員や地域団体もメンバーとなり、事業所からの報告とともに意見を得る機会としている。現状は書面による報告を行っており、感染症拡大の様子を見ながら再開を模索している。	コロナ禍であり、一昨年から書面報告による開催である様子が聞かれました。開催の模索もされているようですが、地域等、多面からも意見を得られるよう取組みの工夫に期待します。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に市役所の方との相談は必要に応じておこなっている。が、この地域の地域包括はあまりない。	運営推進会議メンバーとして市役所・地域包括支援センターいずれかの参加がある。現在は日頃の報告・連絡・相談等で市役所との協力関係の構築に努めている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待予防委員会の取り組みより、職員確認用様式2枚、利用者様用の確認様式2枚と施設での不適切な対応について1枚を毎月実施している	年間計画により、毎月身体拘束・虐待予防委員会の取組みにより職員間での理解の共有・レベルアップに努めている。「不適切な介護」に繋がる懸念の事例が発生した場合は職員間でも意見を出し合い、施設長も交え再発防止に取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の虐待・身体拘束予防活動に追加して、年間の施設内研修計画に身体拘束や虐待防止の内容を含み実施する様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画にあり、年に一度の施設内研修ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎回契約書と重要事項を説明者が全文読み上げて契約をしている。パンフレットもそのつど説明をしている。理解が必要そうな部分は付け加えて説明する様にしている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染予防の為、面会を中止している時期を除いて、毎月各ご利用者様家族を交代に家族参観として施設の食事へ誘い、利用者様と食事して頂き、アンケートにも答えて頂いていたが、現在はコロナ感染予防のため実施が電話やアンケート対応だけになっている。	家族の面会はリスクレベルや健康状態、場所や方法を確認・検討し、出来るだけ受け入れ、職員とも会話の機会を設けている。入居時には施設長も家族と会い、意見を表しやすい関係作りを行っている。面会受入れが難しい時期には施設長・職員から職員への連絡で入居者の様子を伝え、意見を得ている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を出来るだけ毎月中に開き、申し送りや不備や調整事項を確認対応している。報告書の提出がある	施設長は、職員会議や個別面談を行うことで意見や提案を聞く機会としており、業務時間でも意見を出し合える環境がある。施設長は職員育成にも力を入れており、職員それぞれと個別に話す機会も日頃より設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を作成し、強化月間等にて対応をしている。労務管理も対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤になる職員へは、初任者訓練を例外なく記入頂いている。そして、各常勤者へはＯJT職能向上委員会より毎月1名職員の対応を各様式などより分析調整対応、出来る様にしている。現在管理職の職務の引き継ぎ多く、職員の代表に実施してもらう予定。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦にて、いろいろな交流が絶たれていたので、同業者との交流をはかり施設の仕事へ行かせるようにして行きたいので、とっかかりを探すようにする。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用開始時は出来るだけ施設長にて安心した利用開始が出来るように申し送りや暫定ケアプラン等で説明と対応が出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時から本人や各施設の方々、家族との話を聴く機会を大いに役立て、介護支援計画などに反映出来、かつ、実施して効果があるように工夫している。が、多少は各職員の個人の実力差が出る事もあると思われる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時よりすでに介護支援計画を頭に想像しながら、かつ、快適に生活するに必要な事をメモなどを取り本人との話を聴きながら、その時の必要とそれからの必要を考えて相談支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様によっては洗濯物を畳んだり、茶碗を洗ったり、他の利用者様との話に参加し て頂いたりとお互いの共同生活としての作 業と関係づくりが出来る様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族との交流を図る会食会とアンケート調査を実施していたが、現在コロナ感染予防のために控えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の話を基にしたパーソンセンターとケアの研修等を活かして現在は初期の関わりで、好きなこ とや昔の話を聴きだし、対応を図る努力をし ている。	従来のような馴染みの人や場への相互交流は難しい状況であるが、入居前・入居後の入居者との関わりによりこれまでの生活の様子を把握している。介護計画にも趣味や好きな話題等を具体的に記入し、職員間で共有しケアに活かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や好き嫌いを無理強い的に支援せず、自然に相性の良い方との席の調整や対応を心掛ける様にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族や本人からの連絡があれば対応をしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望を聴き、快適で安心の出来る対応するが、自宅での生活を望まれる言葉が出る場合は、周囲の関わる人の言動が作用する場合もあり、どこまで本心で言われているのか、また、実際の自宅生活での困難さと危険についての説明をする場合の本人の不安を増長させる可能性などの配慮も含め適切に検討する様にしている。家族や本人と安全と安心、心地よさの支援が整えば、施設は自宅の様に思えてこなくてはならないのではないかと思う時もある	現状の入居者は思いを表すことのできる方も多く、職員との日頃の会話や関わりで思いの把握に努めている。介護計画にも趣味や好きな話題を具体的に記載しており、家族の意向も確認しながらケアに活かしている。事業所では利用者本位の介護を基本としており、入居者それぞれの心の理解に努めている。	一人ひとりの生活歴や馴染みの環境、本人の潜在能力を引き出す支援を把握し、コロナ禍の昨今に於いても共有空間の居間で出来ること、庭で出来ることなど日々の過ごし方に工夫を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時前の類似協力施設での相談や調整の工夫や対応について 充分な話をして、当施設では個人の深い理 解と出来るだけ短期間において親密で信頼 のできる関係への活用を考えて生活史と本 人理解を勧める様式の記入と活用を施設長 が呼びかけ、認知症変化確認委員会が対 応調整出来る様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員にて個人記録や個人の通院申し送りを記入している。また、業務日誌に1日の雰囲気の記入を必ずするようにしている。また、常勤者必須訓練事項の初任者訓練様式記入時に必ず1名の利用者様の様子毎日記入する様にしており、常勤者が1人1人の過ごし方の把握が出来る訓練を充分に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録と検討会議やTカード対応にて介護計画の調整や介護計画外での対応等を施設独自での開発様式等を記入活用して対応してる。モニタリングや評価として、介護アセスメントを作成し介護主任を筆頭に記入してもらい介護支援専門員も調整し施設の実力に応じたケアプランが作成できるようにしている。	日々の入居者の記録や検討会議等で入居者の状況の把握を行っている。職員の意見を参考にしたアセスメントは細かに記載されている。介護計画は「できることの支援」を具体的に記載し、過度な支援を行わず「見守り」を大切にした視点で作成しており、医師や家族、関係機関の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や通院申し送りファイル、各委員会活動内容、検討会議等の様式に 記録して介護計画や更には各職員の個人 の職業能力支援等に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不適切な対応について、また、個 人記録にある介護支援計画の目標等に関 するモニタリングなどま、ヒヤリ、事故報告と 分析対応について等の記入や改善によりケ アプランに乗らない総合的な物や個別的な サービスの調整がされている時もある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月行事委員会としての地域の催しの参加などが、以前は行なわれていたが、コロナ渦のなか、あまり活動はされていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週係り付け医へ通院介助と申し送りを行い処方箋にて薬を貰ったり、体調不良時の入院対応や治療なども行って頂き助かっている。	入居前からのかかりつけ医による継続した受診を支援している。現状は殆どの入居者は協力医院での受診を受けており、毎週の通院で体調管理を行っている。専門医の受診等には家族での通院介助も見られ、通院申送りで薬等も共有できるようシステム化している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医院と常時調整を行い、施設勤務の看護士との介護職員の申し送りや対応の時間を作り適時調整を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては連携が良く取れておりスムーズな対応が出来ていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度期の対応について、数件の経験を経て、職員や家族の調整する所や技術に関しての研修も少しは出来てきており、良い状態での終末期対応を数件対応出来たが、終末期対応が重なるとなかなか職員や施設の労力の疲弊が見られるので充分に工夫したい。	入居者・家族からの希望があれば終末期に向けた支援を行っている。ターミナルケア・エンゼルケアについての研修に加え、施設長は家族や職員自身の心への向かい方等も学ぶ機会を作り、職員個々への対応も行うことで職員自身の介護の振り返りにも繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命に関しての研修を年間研修計画にのせて実施をしていた。今年は未実施。年間に火災通報消火避難訓練を実施しているが、これからの様々な災害や争いやパン デミックなどは充分に意識した責任感と正義感の強い訓練を好む職員を数名育てて対応をしてゆきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災避難訓練は未実施、水害避難訓練計画は作成したが、未実施である。さらにミサイルや台風や地震の災害対策訓練が必要に思えるが、タイミングや規模を工夫して実施したい。	年2回の火災避難訓練を実施している。自然災害については計画のみで実施には至っていない。緊急時対応のため、消防や警察より講師を招き、応急処置や事故への対応も学ぶ機会を持った。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待予防予防委員会や年間の研修計画に個人のプライバシーや尊重についてふれている。また、声掛けに関しては、命令しない、怒らない等、利用者様に配慮した声掛けをする様に暫定ケアプラン等に記載して徹底をはかっている。	日頃のケアで入居者に対する声掛けへの配慮を行っており、事業所全体で声掛けの仕方やケア時の対応の向上に取組んでいる。	事業所は入居者にとっての自宅であり生活です。現状面会等の訪問は見られませんが、オムツ等、入居者の身のまわりの用品等が目に触れない工夫も必要かと感じます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人への抑制的な話し方や対応を禁止しているが、認知症の方の意志を繊細に読み取り、対応出来ている職員がいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼間などに穏やかな時間が作られている事も多く、利用者様に応じた支援がしてある様にも思える。特に問題のなる職員への対応は今まで充分に様式や訓練内容が確立しており、実績もあるので、問題はないと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関しての支援は、本人の好みを充分に配慮して、ご家族が好印象に思えるように意識して下さいと暫定ケアプラン等に記載している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の工夫を仕入れ段階から少し配慮して以前より工夫をしている。食事の形態も厨房を連携して充分に安全で美味しく食べれるよ うに工夫をしてもらっている。	隣接する法人の調理場を利用し、手作りの料理を事業所内でつぎ分け提供している。入居者に応じて刻み食やお粥も厨房で準備されて届くため、職員で確認し提供している。検食は職員が行っている。入居者によっては茶碗ふき等、できる範囲での関わりも見られる。	入居者の「うまかなぁ」等の直接の声もある様子が聞かれました。栄養面での工夫もありますが、行事食等、食が生活の一部であり、楽しみに繋がる工夫にも期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適宜、体重やIBM値の測定をして健康状態の目安にしている。低栄養や食欲ない方の定体重減退については、以前と同じく、飲み物やおやつで栄養補助食品をお勧めしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日食後行う様にしている。歯科医師による訪問ケアを行って頂いている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立可能な方についての排泄支援は、無理に自立を妨げない様に排泄付き添いの支援を継続して行っている。	居室それぞれにトイレが完備されており、できるだけトイレでの排泄ができるよう、声掛け等により支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給については、①朝起②朝食前③朝食後④10時⑤昼食前⑥昼食後⑦15時⑧16時⑨夕食前⑩夕食後に250ccほどの湯のみで行う様になっている。水分量が気になる方の報告は毎日毎回施設長へメールで行う様にしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回から3回の入浴と、出来ない時の代替支援をする様にしており、週に3回は入浴等出来るようにしている	週3回程度の入浴を基本としている。入居者の気分等により拒否が見られた際には無理強いせず、代替支援として清拭・足湯・おしぼり・着替えを行っている。スムーズな入浴に繋げるため、リビングの椅子の配置にも工夫した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は皆同じではなく、自由に眠たくなったら寝れる支援を行っている。夜間帯にての対応を認知症変化委員会等に記載して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認委員会にて対応をしている。個人の服薬管理について曜日を決めて確認する様にしている。変更時は特記して職員会議時に報告できるようにしてある。薬の効果等に関しては処方時の用紙に記入有確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好調査を定期的に実施する様にしているが、それを大いに活用して把握して工夫して対応出来ているか確認が必要と思われる。月行事委員会活動にて新しい取り組みについての記入欄を設けて活動を推奨しているが、いまだ活発に実施できていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のいい時期は、職員が連れ添って外気浴や散歩に出ているときもあった。日頃から、通院時は一度は外に出るようになっている。	週１～２回、通院や散歩等の外出を継続している。隣接する医院には毎週受診に出かけており、外気を感じる機会であり、生活の刺激にもなっている。。季節の花見や地域で開催されるトライアスロン見学等も行った。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近は個人でお金を使う希望が乏しくなったと思われるが、必要ならば対応できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば話せる様にしている。年賀状などは渡すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機を取り付け、施設内感染予防に取り組んだり、音楽や雰囲気の記録などを配慮した支援を意識する様にしている。出来 るだけ利用者様が穏やかに過ごされること についての支援を心がけて指導をしたりして いる。	フロアが「コ」の字型の作りとなっており、入居者が自由に歩いても混乱なく、死角がないよう配慮されている。動線も考え、服薬の場面や入浴にスムーズに繋がるような椅子の配置等、工夫も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	心地良い様にソファーや食事の机などの配置なども少し気にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の整頓を毎月担当うぃきめて実施す るようになっている。整頓の仕方や美的なセンスに個性的な違いや常識的な配慮が必要な場合も考えられる。	各居室には洗面台とトイレが完備され、ベッド・布団・毛布等も事業所にて準備している。担当職員により毎日居室のトイレ掃除を行い、月１回は居室の整頓・チェックを行っている。	安全・清潔に配慮されている様子が窺えました。居室は入居者にとっての生活の場です。家族や入居者の生活を感じることのできる居室作りの工夫に期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内にて施設内を散歩される方もおり、家事や洗濯等の手伝いなどをされる方もいる。取り合いやトラブルにならない様に支援できるように配慮する事伝えてある		

２　目標達成計画

事業所名ぐるーぷほーむやすらぎ
作成日　令和4年9月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	一人ひとりの生活歴や馴染みの環境、本人の潜在能力を引き出す支援を把握し、コロナ禍の昨今に於いても共有空間の居間で出来ること、庭で出来ることなど日々の過ごし方に工夫を期待します。	コロナウイルス感染予防の徹底をするが、春や秋に人との接触を避けるようにして自然や町とのなじみの環境を親しむ活動を施設の月行事委員会などに提言して対応をしたい。	広報誌あまくさの月行事などで、人と接触があまりないイベント等に参加する。1月の天草マラソン大会などの見学も良いと思う。	1年
2	36	事業所は入居者にとっての自宅であり生活です。現状面会等の訪問は見られませんが、オムツ等、入居者の身のまわりの用品等が目に触れない工夫も必要かと感じます。	各部屋ごとの担当職員をきめた居室環境美化も行っているが、職員によってかなりの差があるので、綺麗な部屋を参考に合わせた調整をしたい。面会も窓越しに可能なので、当施設特有の条件を活かしたい。	主任が主になり、各居室の美化活動を実施頂く。綺麗なものに合わせて、他職員の助言も聞いて行いたい。コロナ感染予防にて、面会が難しいが、窓越しならばいつでも当施設は可能なので、実施を前向きに進める。	1年
3	40	入居者の「うまかぁ」等の直接の声もある様子が聞かれました。栄養面での工夫もありますが、行事食等、食が生活の一部であり、楽しみに繋がる工夫にも期待します。	当施設の食事内容と料金はリーズナブルと思います。が、行事食の工夫は何かしたいところです。誕生日に皆さんに簡単なカップケーキを付けたりなどもすぐに出来るいいことだと思います。	誕生日や行事等に簡単に付け足せるおやつや副菜を考えて付け足していきたい。月行事委員会と協力してイベントと組み合わせることも良いと思います。	1年
4	54	安全・清潔に配慮されている様子が窺えました。居室は入居者にとっての生活の場です。家族や入居の生活を感じることのできる居室作りの工夫に期待します。	数年前の梅雨に雨の影響で壁紙が汚れたので、張替えをする。また、住みやすく、安全で快適な環境を意識して介護リーダーが整えれるようにしたい。	職員によっては、環境的な危機管理能力が著しく乏しい者もおり、不安な所もあるが、徹底して環境安全活動を不安定な職員にOJTとして、実施してゆきたい。	1年
5					

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。